銅貨の上で　百円札を広げて、
ポケットに入れて　家を出る。

今日は　大変　暖かい。

今度の　新チームの強さは　はっきり知らないが、
他の学校と、どのくらいの差があるのかなあ、
と、思いながら、電車に乗った。

もう、一回戦が　始まっていた。

後輩が僕が来たのに気付き、一人、一人、僕に会釈する。

観客気分で、二階の席から見た。
意外にも　他のチームは　弱そうである。

去年強かった、僕の学校のライバルも
今年は　劣っている。
三十四対四で　完勝したチームもあった。

この調子だと　今後一年の先は　明るい。

しかし、僕の心の中は　暗かった。

僕は、高校生になったら、
ハンドボールを　やめようかと思っている。
それで、寂しく感じた。

僕は、試合を見ながら　考え込んでいた。

49　僕の気持ちは複雑だった・・・・・・・・・・・・212

Candy
in the Heart
214

萩原良昭